

掌中の玩具をめぐる、子どもの楽しみと大人の愉しみ

紅ミュージアム企画展 「ちいさい、ちっこい、ちっちゃ！」

会期 2022年10月18日(火)～12月11日(日)

伊勢半本店が運営する紅ミュージアムでは、2022年10月18日(火)より同12月11日(日)まで、企画展「ちいさい、ちっこい、ちっちゃ！」を開催いたします。



日本には、モノや世界観をミニチュア化することに親しんできた歴史があります。子どもが手にした遊び道具として実用を兼ねたもの、大人の鑑賞のまなざしに呼応して細部の造作や再現性などにこだわり極小美を追求していったもの…。

本展では、江戸時代から昭和時代にかけて製作されたままごと道具やミニチュア台所道具類を中心に、子どもと大人、それぞれの用途と嗜好を探ります。ミニチュアは使用者・所有者、時に製作者の姿を雄弁に語ります。同時にまた、それを手にした者たちがかつて見た景色や時代を今日に伝える資料でもあります。小さなものが写し出す、時代と興趣をご覧ください。

企画展 「ちいさい、ちっこい、ちっちゃ！」

会 期：2022年10月18日（火）～12月11日（日）

開館時間：10：00～17：00（入館は16：30まで）

休 館 日：毎週月曜日

※企画展開催中は、日曜・祝日も開館します

観 覧 料：①600円

②限定小冊子付 800円

※中学生以下と、障害者手帳所持者及びその同伴者1名まで無料

※館内の密集が発生しないよう、入場制限を行う場合があります

主 催：紅ミュージアム

協 力：（一財）大阪市文化財協会、大阪歴史博物館、川内コレクション、

東京大学埋蔵文化財調査室、日本玩具博物館、吉徳資料室

後 援：（一社）日本人形玩具学会

新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のため、予定を変更・中止する場合があります。

最新の情報は当館 web サイトをご確認ください。



勝手道具一式（部分）
明治時代末期 日本玩具博物館蔵

併催イベント：記念講演会「日本ミニチュア略史」

申込方法等の詳細は当館 [web サイト](https://www.isehanhonten.co.jp/museum/workshop/event_20221112/)をご覧ください。

https://www.isehanhonten.co.jp/museum/workshop/event_20221112/

開催日：2022年11月12日（土）14：00～15：00

講 師：林直輝（はやしなおてる）氏 [日本人形文化研究所 所長]

定 員：会場12名／オンライン（Zoom 配信）80名

参加費：500円 ※企画展は別途観覧料が必要です



台所道具 万延元年(1860) 七澤屋製 個人蔵

株式会社 伊勢半本店

掌中の玩具をめぐる、子どもの楽しみと大人の愉しみ

《出展作品紹介》

実物をよく写し、小さくつくられたもの。日本では、モノや世界観を縮小化することに親しんできた歴史が長く、すでに縄文時代にはミニチュア祭祀具の存在が認められます。

ミニチュアは

➡ミニチュアには、一定の縮尺で再現したものと、縮尺に統一性はなくとも再現する対象の特徴を巧みに抽出し、造形のバランスに注力したものとがあります。

前者は、建築模型や雛型、ドールハウスなどであり、後者は、ままごと道具や人形、節句飾りの雛道具、箱庭などが挙げられます。また、縮小化の背景には、子どもの手遊びとして求められた実用性や、大人の鑑賞のまなざしに呼応してより小さなことに傾倒していった嗜好性などがみられます。

ここ見てポイント1. こどもの楽しみ“ままごと遊びの道具”

ままごと道具は、子どもが日常風景をまねて遊びながら学ぶツール、家庭教育の教材としての意味を持つ玩具です。ままごとに用いられた調理器具や食器、茶器などは、「小さい」といっても手に持って遊ぶことのできるサイズです。水回りや炊事設備など当時の生活空間まで巧みに実写した再現性にもご注目ください！



勝手道具一式 明治時代末期
日本玩具博物館蔵



陶器製ままごと道具 昭和10年代
日本玩具博物館蔵

陶器、木、セルロイド、
ブリキ、プラスチック…
時代の移り変わりと一緒に、
材質にも変化が！

ここ見てポイント2. 大人の愉しみ“愛でる極小美”

大人が求めたミニチュアは、遊ぶことを目的とせず、一寸に満たないような規模の中で細部の造作や動きの再現性などにこだわり、見ること・愛でることに重きを置いた、いわば工芸玩具といえるものです。何気ない日用品の縮小化にも反映されたそのこだわりをご覧ください。



磁器製ミニチュア食器類 江戸時代後期～
明治時代初期 川内コレクション



お膳類 明治時代 川内コレクション

一式全てがてのひらに
乗る大きさから、指先に
乗るものまで…虫眼鏡や
老眼鏡必携かも?!

【施設概要】



紅ミュージアム外観



紅ミュージアム常設展示室



ご来館前に、当館 web サイトの最新情報にて、最新の開館状況をご確認ください。

館名	紅ミュージアム
所在地	東京都港区南青山 6 - 6 - 20 K's 南青山ビル 1 階
電話	03-5467-3735
交通案内	<p>■地下鉄■ 東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線 「表参道」駅下車 ・B1 出口より徒歩 12 分 ・B3 出口（エスカレーター・エレベーターあり）より徒歩 13 分</p> <p>■バ ス■ <渋谷駅東口バスターミナル> 51 番乗り場 : 都 01（新橋行）、RH01（六本木ヒルズ行） 渋谷から 2 つ目の停留所「南青山七丁目」（六本木通り沿い）で下車。 高樹町信号の横断歩道を渡り、左手に 50m ほど進む 59 番乗り場 : 渋 88（新橋行） 渋谷から 5 つ目の「南青山七丁目」（骨董通り沿い）下車すぐ。 ※ 駐車場はございませんので、車でお越しの際は近隣コインパーキングをご利用ください。</p>
開館時間	10:00~17:00（入館は 16:30 まで）
休館日	日・月曜日、創業記念日（7/7）、年末年始／本企画展開催中の日曜日は開館
入館料	常設展示は無料／企画展は有料
その他	車いす対応トイレ有り、授乳・オムツ替えスペース有り
WEB サイト	https://www.isehanhonten.co.jp/museum/



EDO
TOKYO
KIRARI

東京都が進める「江戸東京きらりプロジェクト」は、江戸東京の伝統ある技や老舗の産品等を新たな視点で磨きをかけ、その価値と魅力を国内外に発信することで、東京ブランドの確立やものづくりの本場・東京の再興、伝統ある産業の魅力向上、技の継承を目指す取組です。伊勢半本店は、2018年度モデル事業者に選定されました。 <https://edotokyokirari.jp/>

この件に関するお問い合わせ先 株式会社伊勢半本店 PR 担当 mail@isehan.co.jp

お客様お問い合わせ先 紅ミュージアム（火～土曜日 10:00～17:00）

〒107-0062 東京都港区南青山 6-6-20 K's 南青山ビル 1F TEL 03-5467-3735

株式会社 伊勢半本店